

① 学力向上は組織で推進


【学校体制で進める学力向上】

- ◇全ての児童生徒の基礎学力の定着・向上
チームで取り組む授業改善（授業づくり）と個に応じた指導の充実
非認知能力と認知能力を一体的にはぐくむ
- ◇学力診断テスト等を活用したR-PDCAサイクルの確立
教職員による課題と目標の共有と評価

② 学力をつける授業構想は確かな教材研究から

【学力をつける授業づくり ～5つの提言～】

- 提言1 学習意欲を高める授業**
めあての明確化、学習課題の工夫
- 提言2 児童生徒が活動できる授業**
言語活動の充実、問題解決的な学習、思考のある学び
- 提言3 「できる・わかる」喜びを実感できる授業**
基礎・基本の定着と活用、深い学びへの工夫、指導と評価の一体化
- 提言4 系統的で発達段階に応じた学び**
系統性と指導の積み上げ
- 提言5 目的意識のある家庭学習**
授業とつなぐ内容の工夫



5つの提言を実現させる10のチェックポイント

提言1	児童生徒の学習意欲につなげる「めあて」や「見通し」の提示ができたか。 学習課題を工夫し、児童生徒が考える場を設定できたか。	<ul style="list-style-type: none"> • 付けさせたい力が、「めあて」にしっかりと明記されていますか。 • 教師が、見通しや解決方法を全て示して、児童生徒の学習意欲を減退させていませんか。 • 魅力ある学習となるよう、教師も授業づくりを楽しみましょう。
提言2	本時の目標を達成するために効果的な言語活動を取り入れたか。 児童生徒が目的意識を持ち、主体的に課題を解決する学習活動を取り入れたか。 (最適解を求める問題解決的な学習の設定等) 教師が見通しや解決方法を示しすぎることなく、児童生徒が考えたり表現したりする活動を取り入れたか。	<ul style="list-style-type: none"> • グループ学習の目的が明確になっていますか。 • 課題を把握したり、考えたり、考えを表現したりする場が位置づけられていますか。 • 児童生徒が授業の主体者です。教師が話しすぎないようにしましょう。
提言3	基礎・基本を定着させる工夫ができていたか。 (知識・技能の活用等) 「対話的な学び」や「めあてを意識した振り返る活動」を通して、個々の深い学びへつなげられたか。	<ul style="list-style-type: none"> • 学習内容を焦点化、振り返る活動を位置付けた授業構成ができていますか。(45・50分の授業時間内に振り返る活動ができていますか。) • 定着を図る授業の工夫を試みましょう。
提言4	単元全体の評価計画に基づいて適切に評価し、本時の指導に生かしたか。	<ul style="list-style-type: none"> • 身に付けたい力や評価の観点が違うのに、毎時間、同じ授業展開になっていませんか。 • 学年の系統性を生かして、学習の積み上げを図りましょう。
提言5	指導内容の系統性を踏まえた、発達段階や個に応じた指導になっていたか。 (教材・教具、発問、指示、グループ構成・活動等)	
提言5	家庭で学びたい工夫を授業に組み込んだか。	<ul style="list-style-type: none"> • 「家庭学習の手引き」「学習ファイル」等の取組や活用が進んでいますか。 • 家庭学習の評価や指導をより具体的に行いましょう。

③ 学力を伸ばすための指導と評価の一体化

○学期末や学年末などの事後での評価に終始し、児童生徒の学習改善につながっていない。
○「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面をとらえる評価が中心になっている。等

これからの学習評価

- 児童生徒の学習改善につながるものにしていく。
- 教師の指導改善につながるものにしていく。
- 必要性・妥当性が認められないものは見直していく。

指導と評価の一体化

評価の基本構造

- 観点別学習状況の各観点
- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 感性、思いやり等
- 主体的に学習に取り組む態度
- 個人内評価

各教科等の知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。

観点別学習状況の評価や評価には示しきれない児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する。

